



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 鶴屋町3丁目PJ	階数	地上8F
建設地	横浜市神奈川区鶴屋町3丁目29-4、29-14、29-15	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、病院、等	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2021年10月 竣工	評価の実施日	2020年8月5日
敷地面積	855 m ²	作成者	有限会社ケミカルデザイナー 建築士事務所 奥村 俊恵
建築面積	574 m ²	確認日	2020年8月5日
延床面積	4,445 m ²	確認者	有限会社ケミカルデザイナー 建築士事務所 奥村 俊恵



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 84% (92 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 84%

④ 上記+: 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	ノンフロン断熱材を使用する・再利用できる部材(OAフロア)を採用するなどして環境悪化を抑制する配慮をしている	その他 特になし
Q1 室内環境	内装材はほぼ全面にF☆☆☆☆を使用	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の緑化により、緑量の確保及び暑熱環境の緩和に努めている
LR1 エネルギー	断熱材を使用し建物の熱負荷抑制に考慮している	LR3 敷地外環境 自転車置場や駐車スペースを確保し、周辺への交通負荷抑制に配慮している
Q2 サービス性能	ゆとりある階高を設定している	
LR2 資源・マテリアル	グリーン購入法適合商品を積極的に採用	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



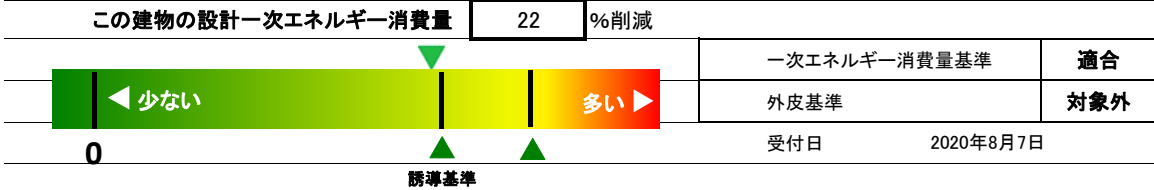
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)鶴屋町3丁目PJ

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 3

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPI_m=0.70

③BEI_m=0.78

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 2

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯内装材や配管材料は耐用年数の長いものを使用

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)鶴屋町3丁目PJ

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境										2.8
1 音環境				3.0	0.15	-	-	-	-	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1		開口部遮音性能		3.0	0.58	-	-	-	-	-
2		界壁遮音性能		3.0	0.42	-	-	-	-	-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-	-	-	-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	-	-	-
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	-	-	-
1		室温		快適・働きやすさ	3.0	0.39	-	-	-	-
2		外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	3.0	0.24	-	-	-	-
3		ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	3.0	0.37	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	-	-	-
3 光・視環境				2.3	0.25	-	-	-	-	2.3
3.1 昼光利用				1.9	0.34	-	-	-	-	-
1		昼光率		快適・働きやすさ	1.0	0.53	-	-	-	-
2		方位別開口		快適・働きやすさ	-	-	-	-	-	-
3		昼光利用設備		快適・働きやすさ	3.0	0.47	-	-	-	-
3.2 グレア対策				2.0	0.27	-	-	-	-	-
1		昼光制御		快適・働きやすさ	2.0	1.00	-	-	-	-
3.3 照度				3.0	0.13	-	-	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	0.26	-	-	-	-	-
4 空気環境				3.0	0.25	-	-	-	-	3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-	-	-	-
1		化学汚染物質		快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-	-	-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	-	-	-
1		換気量		快適・働きやすさ	3.0	0.39	-	-	-	-
2		自然換気性能		快適・働きやすさ	3.0	0.21	-	-	-	-
3		取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	3.0	0.39	-	-	-	-
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	-	-	-
1		CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-	-	-
2		喫煙の制御		快適・働きやすさ	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	-	-	2.8
1 機能性				2.7	0.40	-	-	-	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1		広さ・収納性		快適・働きやすさ	3.0	0.21	-	-	-	-
2		高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	3.0	0.21	-	-	-	-
3		バリアフリー計画		快適・働きやすさ	3.0	0.58	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.6	0.30	-	-	-	-	-
1		広さ感・景観		快適・働きやすさ	-	-	-	-	-	-
2		リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	3.0	0.31	-	-	-	-
3		内装計画		快適・働きやすさ	1.0	0.69	-	-	-	-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	-	-	-
1		維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	4.0	0.50	-	-	-	-
2		維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	-	-	2.9
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-	-	-
1		耐震性		防災	3.0	0.80	-	-	-	-
2		免震・制振性能		防災	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	-	-	-
1		躯体材料の耐用年数		防災	3.0	0.20	-	-	-	-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	2.0	0.20	-	-	-	-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	3.0	0.10	-	-	-	-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	3.0	0.10	-	-	-	-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	5.0	0.20	-	-	-	-
6		主要設備機器の更新必要間隔		防災	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-	-	-	-
1		空調・換気設備		防災	1.0	0.20	-	-	-	-
2		給排水・衛生設備		防災	2.0	0.20	-	-	-	-
3		電気設備		防災	3.0	0.20	-	-	-	-
4		機械・配管支持方法		防災	3.0	0.20	-	-	-	-
5		通信・情報設備		防災	3.0	0.20	-	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	-	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				3.0	0.30	-	-	-	-	-
1		階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	-	-	-
2		空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-	-	-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-	-	-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-	-	-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-	-	-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-	-	-
6		バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-	-	-



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)鶴屋町3丁目PJ

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮		3.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑬敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化		3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				4.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.50	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-
2 污水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-
1 騒音				3.0	0.33	-	-	-
2 振動				3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				2.3	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-

上記以外の重点項目							
<事務用途>							
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組		1.0	-	-	-
<住宅用途>							
健康と安心							
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策		-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策		-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策		-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策		-	-	-	-